

山田堰、冬の旅

【撮影日】 2026年1月24日

【作品の場所】 山田堰

【作品の概要】

山田堰の水は、江戸から未来へ流れている。

朝倉で生まれた技術は、海を越えてアフガニスタンまで届いた。

冬の陽が差した瞬間、その旅の“続き”を見ている気がした。

足が止まりました。山田堰の説明を読んだと思いました。

歴史と、人。歴史は、人より長生き。人より長く呼吸している。

ただ、流れているように見える水が暮らしを繋いで、国を繋いで、知らない誰かの未来まで運んでいる。

何だか、朝倉って、そういう時間があります。それがいい。



勢いの、ある方

【撮影日】

2026年1月24日

【作品の場所】

山田堰の向こう側

【作品の概要】

山田堰の説明を読んだ後に、向こう側へ行ってみました。

ゴウゴウ！ブクブク！水の流れる音？ぶつかる音？

凄く激しい方へ来てしまいました。水の旅も、大変そうでした。





今日も流れているね、筑後川。

【撮影日】 2026年1月2日

【作品の場所】 両筑橋

【作品の概要】

みんなお馴染み筑後川。
水の回廊を巡っていると筑後川に辿り着く。

朝倉市に産まれて、ずっと筑後川はいました。

小学生の頃の授業にも、中学生の頃も、そして大人になっても。

筑後川に、辿り着くんです。筑後川は、水の師匠です。

1級河川の持ち主です。たまに、氾濫しますけど両筑橋は工事中です。

完成したらご機嫌になるといいな、筑後川。

【撮影日】

2025年11月16日

【作品の場所】

秋月バス停

【作品の概要】

紅葉を観に行きました。古い町並みと冷たい空気。

「降車の際は、思い出をお持ち忘れのないようご注意ください。」

と言いたくなります。

秋月もいつ来ても、心が落ち着きます。石畳と山の匂い。

時間と水がゆっくり流れているところです。

レトロなバス停が物語っています。

まもなく、秋月です。





子ども達を、見守ってる。

【撮影日】 2025年11月16日

【作品の場所】 秋月中学校 校庭

【作品の概要】

秋月を散策中に、秋月中学校の校庭に降りて来ました。すると、木と目が合いました。

校庭を一望出来る位置に。
木について調べる事は出来ませんでした
ですが、僕には気になる木です。

自然と生きる木造の校舎。きっと沢山の思い出が詰まってるんでしょうね。

知ることも出来ない思い出を想像すると子どもたちの笑顔が浮かびませんか？

光と水の回廊で、帰ろう。

【撮影日】 2025年11月16日

【作品の場所】 秋月散策中にて

【作品の概要】

秋月の散策道の散策の帰路。「帰ろっか。」と。

秋月の散策は、用水路の水の音と共にありました。

大きい水路だったり狭い水路だったり、秋月の音でした。

歩き疲れた頃に、夕陽の光、水路の反射に「うん。帰ろう。何を食べて帰ろっか。」と言いました。

あさくら旅やっているうちに、僕の癒しの旅になっていました。

秋月も素敵なトコロです。

